

よろい かぶと 鎧と兜 ぶし は すがた 武士の晴れ姿

6月の
ポイント

土曜 子ども 教室

令和元年

鎧や兜は戦いの場で刀や鉄砲から身を守るための道具ですが、平和な時代になると宝物として装飾や美術品として鑑賞するようになりました。徳川美術館には、徳川家康や尾張徳川家の初代徳川義直をはじめ歴代のお殿様たちのりっぱな鎧・兜が保存・展示されています。



くろぬりかちいとおどりよい
黒塗勝系威鎧

よろい かぶと しゆるい 鎧・兜の種類

日本の中(甲冑)は古墳からの発掘例があるように、古代からあり、時代や戦闘方法の変化とともに変わりました。 「大鎧」は今から約800年前の平安時代のおわりから室町時代にかけて、主流だった鎧・兜です。この頃は主に弓矢を使って戦いました。鎧・兜は赤やさまざまな色系で威され、美しく、気品高く、豪華でした。大将クラスの鎧・兜は約30キロから40キロありました。

しかし、戦国時代になると、鉄砲や槍を用いた集団戦へと戦闘方法が変わり、集団戦に便利なように軽くて、小型な「胴丸」が主流になりました。武将たちは胴丸をした。武将たちは胴丸を基本に、さまざまな工夫を凝らした個性あふれる当世具足を身につけるようになりました。「当世」とは今ふうという意味で、「当世具足」は新しい形式の鎧・兜をいいます。



ながしかっせんとうせいくそく
<長篠合戦での当世具足>

えどじだい
江戸時代のことがわかる子ども向けホームページ
「よしなおくん」もみてね。

2

おおよい 大鎧・当世具足の部分名称

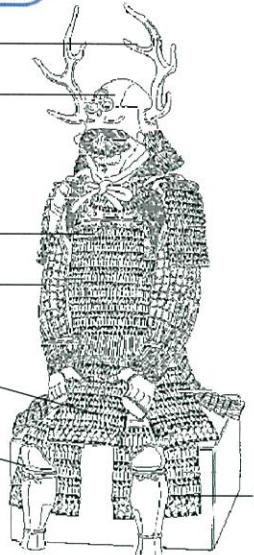
「大鎧」は前と左脇と後ろが一続きでコの字型。

「当世具足」の二枚胴の場合は、前胴・後胴の二枚で出来ている。

おおよい 大 鎧



とうせいぐそく 当世具足



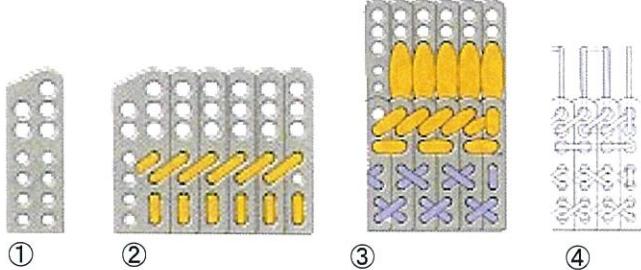
- ①兜(かぶと) ……頭を守る戦闘帽。
- ②鍔形(くわがた) ……飾りであり、敵の刃の勢いをおさえる役目がある。
- ③大袖(おおそで) ……敵の矢や槍を防ぐ。
- ④胴(どう) ……胸や腹部を守る。
- ⑤脇楯(わいだて) ……大鎧の胴の右に着け、右脇を守る。大鎧のみ。
- ⑥梅檀(せんだん) ……矢を引いた時の右胸のすき間を守る。

- ⑦鳩尾(きゅうび) ……梅檀と同じく、左胸のすき間を守る。
- ⑧籠手(こて) ……敵の刀から腕を守る。
- ⑨草摺(くさづり) ……腰まわりをおおって守る。
- ⑩佩楯(はいだて) ……草摺の下にはき、ももを守る。当世具足のみ。
- ⑪膚当(すねあて) ……すねを守る。

3

おどし 威ってなに?

鉄や革を長方形に切り、穴を開けた小さな板を小札といいます。兜のしころや胴・大袖・草摺は、その小札の穴に緒(組み紐や革)を通して、いく段かに組み合わせて作られています。この形式を威といいます。さまざまな色系で威することで、見た目にも美しく、強い鎧・兜となります。



①小札 (大鎧1領に1,500~2,000枚の小札を使用)。

②小札を半分ずつ重ね、横にとじる。

③②を上下にならべて威す。

④紐の通り方。

令和元年

6月の
ポイント

よろい
かぶと
鎧と兜
武土の晴れ姿



美術館
土曜
子ども
教室